

新城市民病院での研修レポート

名古屋第一赤十字病院

新城市民病院では 4 週間、地域実習の研修をさせて頂きました。お忙しい中、指導していただいた先生方、お世話になった病院のスタッフの皆様、ありがとうございました。

新城市民病院での実習では、主に総合診療科を受診された初診の患者さんの問診と診察を行い、プロブレムを挙げ、鑑別疾患や必要な検査を考えるといった一連の診療をさせて頂きました。普段の研修では救急外来の診療が多く、緊急での介入が必要な状態かどうか治療可能な状態かどうかの判断を行った後は、専門家にフォローをお願いすることが多いのですが、新城市民病院では初診で担当した患者さんの外来フォローや、患者さんが入院した場合は、その後の治療や評価も担当させて頂きました。今回の研修では、自分が初診で見た患者さんの経過や治療への反応を確認することができ、勉強になりました。普段の救急外来ではあまり経験しないような、軽症の疾患に関しても学ぶよい機会となりました。また、総合診療科では毎日振り返りが行われ、自分の行った診察やアセスメントに対して多くの先生にご指導頂きました。ただ漫然と検査をだすのではなく、それにより何を評価したいのかや、感度や特異度を考えて検査結果を評価することの重要性をご指導いただき、大変勉強になりました。

また、今回の研修では、作手診療所や訪問診療へ同行させて頂きました。作手診療所では限られた医療資源をもとに診療を行うべき地医療の現場を経験させて頂きました。作手地域は基幹病院へのアクセスが悪く、かつ高齢化が進んでおり、限られた医療資源の中でどこまで診療所で診るのかを、本人の状態だけでなく、患者さんの生活背景も意識して診察にあたっている姿が印象的でした。訪問診療では、主に悪性腫瘍による全身状態の悪化があり、病院への通院が難しい患者さんを診察しました。市内で訪問診療を経験する機会はありませんでしたが、訪問診療により家族と生活しながら緩和的な医療を受けることができている方々を見て、今後誰でも訪問診療が選択できる制度やさらに患者さんだけでなく家族もサポートできる体制が必要だと感じました。

他にも、論文の読み方に関する EBM 勉強会なども開催して頂きました。論文の探し方や PECO に着目し、短時間で論文の全体像を把握するといった基本的なところから教えて頂き、大変勉強になりました。また Up to Date を用いて日常業務で抱いた臨床疑問を解決する勉強会が行われており、普段研修している病院ではあまり機会がなかったため大変勉強になりました。

初期研修医として大変勉強になる 4 週間であり、学んだ事柄を今後の診療に活かしていきたいと思います。繰り返しになりますが、今回の研修でお世話になったすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。